

専修大学図書館所蔵『上方芝居番付』… (二)

山 本 聡

はじめに

本稿は、前号（第八十八号）に引き続き専修大学図書館に所蔵されている全十五冊の上方芝居番付の書誌を記す。前号では全十五冊の冒頭から『上方芝居番付 一』、『上方芝居番付 二』、『上方芝居番付 三』の三冊の書誌をおこなった。本稿では、前号に引き続き、『上方芝居番付 四』の書誌をまとめたが、紙面の都合上すべてを掲載することができない。そこで、本稿では『上方芝居番付 四』の途中までを掲載し、残りは次号に掲載予定である。

《凡例》

一、本稿は、専修大学図書館が所蔵する上方芝居番付資料全十五冊（請求記号 A774/Ka37）の内、上方芝居番付四を書誌調査したものである。

二、各番付資料について、原則的に次の事項を記載した。

①【地域】、②【座】、③【番付種別】、④【上演年月日】、⑤【外題】、⑥【読み】、⑦【座本】、⑧【名代】、⑨【太夫本】、⑩【狂言作者】、⑪【版元】、⑫【演者】、⑬【備考】

三、記載事項細目

①【地域】は興行地域を、番付の記載に基づき示した。記載がないものは②の上演劇場や他の資料で考証した。

②【座】は上演劇場（座）を、番付の記載に基づき、略称によって示した。記載がないものは他の資料で考証した。

③【番付種別】は、番付の記載や他の資料による考証から示した。

④【上演年月日】は、番付面の記載に基づき示した。年月の記載がない場合は他の番付、年表類などによって考証したが、番付の記載と考証によったものとの区別は記していない。

⑤【外題】は、番付の記載に基づき、原則的に旧漢字、異体字、略字体等は常用漢字に改めた。但し、慣用されている異体字の一部は残した。

⑥【読み】は、番付の記載と考証により、外題の読み現代仮名遣いに改めた。濁点、半濁点などは、番付表記にこだわらず適宜補って記した。

⑦【座本】【名代】【太夫本】は興行関係者名を、番付の記載に基づき示した。

⑧【狂言作者】は、番付の記載に基づき、主な狂言作者名のみを示した。原則的に旧漢字、異体字、略字体等は常用漢字に改めた。但し、慣用されている異体字の一部は残した。

⑨【版元】は、番付面の記載に基づき示した。

⑩【演者】は主要出演者名を、番付の記載に基づき、主な主要出演者名のみを示した。原則的に旧漢字、異体字、略字体等は常用漢字に改めた。但し、慣用されている異体字の一部は残した。

⑪【備考】は、絵本番付の枚数、二枚組番付上下、番付内書入、番付内の判別不可の文字等の情報を示した。

なお、番付面に見えず考証により判明した事項はすべて「」で補った。

上方芝居番付四 天保年間 『役者役割番付』

No 1

【地域】名古屋

【座】清寿院境内

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文政十三年（1830）〕寅八月吉日

【外題】（一）花霞名盛扇

（二）三津重桐の島台

【読み】（一）はなかすみなとりのおうぎ

（二）みつかさねきりしまだい

【名代】千代屋七右衛門、海老屋左吉、稲荷屋伝兵衛

【狂言作者】奈河政輔、竹光造

【演者】嵐三津五郎、中村仲助、嵐馬十郎、中村歌路之

助、中山よしを、坂東のし月

No 2

【地域】名古屋

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】午二月十一日

【外題】（三）秋葉権現廻船語

（四）四天王寺伽羅姿

【読み】（三）あきばごんげんかんせんばなし

（四）してんのうじがらんすがた

【座本】竹田外記

【名代】松本屋治平

【太夫本】柳弥助

【狂言作者】奈河来作

【版元】内茶屋 大松

【演者】中村歌蔵、中村京十郎、尾上徳松、玉川弥三郎

No 3

【地域】名古屋

【座】稲荷芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化九年（1812）〕申四月二十七日

【外題】（五）双蝶々曲輪日記

〔六〕 道行菜種の乱咲

〔読み〕 (五) ふたつちようちようくるわにつき

(六) みちゆきなたねのみだれざき

〔座本〕 藤川半太夫

〔名代〕 千代屋七右衛門

〔狂言作者〕 近松治助、並木三代助

〔演者〕 片岡仁左衛門、浅尾工左衛門、中村大吉、尾上

新七

No 4

〔地域〕 名古屋

〔座〕 大須芝居

〔番付種別〕 役割番付

〔上演年月日〕 (天保八年(1837)) 酉十月八日

〔外題〕 (七) 長柄長者黄鳥墳

(八) 三国伝来御法礎

(九) 蟹気楼

(十) 道成寺

〔読み〕 (七) ながらのちようじゃうぐいすつか

(八) さんごくでんらいみのりのいしずえ

(九) しんきろう

(十) どうじようじ

〔座本〕 竹田縫之助、竹田百三郎

〔名代〕 和泉屋、相模椽

〔狂言作者〕 近松呉龍軒、奈川政吉

〔版元〕 内茶屋

〔演者〕 百村猪三郎、谷村権九郎、沢村八重三、中村小

吉、嵐熊吉

No 5

〔地域〕 名古屋

〔座〕 清寿院境内

〔番付種別〕 役割番付

〔上演年月日〕 二月六日

〔外題〕 (十一) 色艶三光櫛

〔読み〕 (十二) はですがたさんこうのくし

〔座本〕 千代屋七右衛門

〔名代〕 海老屋左吉

【細工人】 竹田近江大掾

【狂言作者】 奈川重輔、奈川亀助

【演者】 松嶋富士之助、嵐吉之助、藤川由三郎、坂東小

重、中村仲市

N 0 6

【地域】 名古屋

【座】 清寿院境内

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文政二年（1819）卯閏四月二十二

日

【外題】（十二）大和国井手下紐

【読み】（十二）やまとのくにいでのしたひも

【座本】 海老屋左吉

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 奈河力輔

【演者】 嵐三津五郎、嵐三蔵、坂東七五郎、片岡松右衛

門、中村歌蔵、中山一徳、尾上芙蓉、片岡市蔵

N 0 7

【地域】 名古屋

【座】 清寿院境内

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保六年（1835）未九月二十八日

【外題】（十三）けいせい菜種■（■は女偏に集）

【読み】（十三）けいせいなたねのおおよせ

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稻荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河繁造、奈河寿輔

【演者】 嵐三津五郎、大谷万作、片岡あやめ、坂東七五

郎

N 0 8

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十一年（1840）子十一月十五

日

【外題】（十四）蘆屋道満大内鑑

【十五】京鹿子娘道成寺

【読み】(十四) あしやどうまんおおうちかがみ

(十五) きょうかのこむすめどうじょうじ

【座本】松嶋平蔵

【名代】菊屋半七、藤屋利八

【狂言作者】奈河平作、桜田松助

【演者】中山文七、山村儀右衛門、坂東瀧蔵、藤川新蔵、芳沢いろは、藤川八甫

N o 9

【地域】不明

【座】不明

【番付種別】役割番付

【上演年月日】不明

【外題】(十六) 吉原細見図

【読み】(十六) よしわらさいけんず

【座本】松嶋平三郎

【名代】菊屋半七、藤屋利八

【狂言作者】奈河平作、桜田松助

【演者】中山文七、山村儀右衛門、芳沢いろは、山下秀

治郎、坂東瀧蔵、藤川新蔵、藤川八甫

【備考】半丁

N o 10

【地域】名古屋

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十一年(1840)〕子十月十八日

【外題】(二七) 奥州安達原

(二八) 京鹿子娘道成寺

【読み】(二七) おうしゅうあだちがはら

(二八) きょうかのこむすめどうじょうじ

【座本】松嶋平三郎

【名代】菊屋半七、藤屋利八

【狂言作者】奈河平作、桜田松助

【演者】中山文七、山村儀右衛門、芳沢いろは、山下秀

治郎、坂東瀧蔵、藤川新蔵、藤川八甫

N o 11

【地域】 名古屋

【座】 大須芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「文化十三年」 八月二十四日

【外題】 (一九) 一谷嫩軍記

(二〇) 富岡恋山開

(二二) 戻駕色相肩

【読み】 (一九) いちのたにふたばぐんき

(二〇) とみおかこいのやまびらき

(二二) もどりがごいろにあいかた

【座本】 都伝治郎

【名代】 和泉屋、相模椽

【狂言作者】 奈河三九助、奈河七三助

【演者】 森田勘弥、沢村淀五郎、中山倉次郎、沢村東

蔵、荻野仙花

N o 1 2

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (二二) 傾城佐野の船橋

(二三) 草花比翼碑

【読み】 (二二) けいせいさののふなばし

(二三) くさのはなひよくのいしぶみ

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 海老屋左吉

【狂言作者】 並木政四郎

【演者】 中村亀丸、中山倉治郎、市川三平、中山十三吉

N o 1 3

【地域】 名古屋

【座】 (稲荷芝居)

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「文化十年(1813) 酉霜月十五日」

【外題】 (二四) けいせい駅路梅

(二五) 慣ちよつと七化

【読み】 (二四) けいせいえきろのうめ

(二五) みならうてちよつとななばけ

【座本】 藤川花瀬

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 奈川泉助、奈川亀助

【演者】 中村幸市、大谷友治、山科甚吉、藤川花瀬、中村鶴助、谷村可情、中山徳三郎

No 14

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841） 丑二月二十五日〕

【外題】 (二六) 傾城佐野の船橋

【読み】 (二六) けいせいさのふなばし

【座本】 山村坂国

【名代】 藤屋狸八、菊屋半七

【狂言作者】 近松呉龍軒、近松呉平

【演者】 藤松三十郎、山村儀右衛門、藤川龍蔵、中山百

蔵、芳沢稻三郎、山村写之助、坂東瀧蔵

No 15

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841） 丑八月十日〕

【外題】 (二七) けいせい黄金鶏

【読み】 (二七) けいせいごがねのにとり

【座本】 松嶋吉松

【名代】 菊屋半七、松屋嘉七

【狂言作者】 丸岡久平、並木次郎吉

【演者】 谷村金蔵、浅尾浅右衛門、中村吉太郎、中山新

七

No 16

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (二八) 木下蔭雌雄治礎

(二九) 五大力恋緘

【読み】 (二八) このしたかげしゆうのいしずえ

(二九) ごだいきこいのふうじめ

【名代】 桜屋藤三郎

【狂言作者】 奈川九二輔

【演者】 嵐若松、沢村右源太、中村金蔵、中山来助、嵐

文吾、中山新七

【備考】 番付右端に「竹田しんからくり」

N o 1 7

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (三〇) けいせい廓草環

(三二) 吉原細見図

【読み】 (三〇) けいせいさとおだまき

(三二) よしわらさいけんず

【名代】 桜屋藤三郎

【演者】 中村吉蔵、嵐平九郎、浅尾友蔵、吉沢八蔵

N o 1 8

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保十年 (1839)) 亥三月六日

【外題】 (三二) 祇園祭礼信仰記

(三三) 姫競二葉絵双紙

(三四) 花春恨鮫鞘

【読み】 (三二) ぎおんさいれいしんこうき

(三三) ひめくらべふたばえぞうし

(三四) はなのうらみさめざや

【名代】 松本屋増太郎、美濃屋勘右衛門

【太夫本】 山下秀治郎

【狂言作者】 並木弥七、奈河十兵衛

【演者】 中村仲助、中村芝蔵、桐山半治、松嶋巳之助、

尾上徳松、嵐市蔵、藤川友菊

N o 1 9

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】四月晦日

【外題】(三五) 三十石燈始

【外題】(三六) 太平記忠臣講釈

(三七) 壇浦兜軍記

【読み】(三五) さんじつこくよぶねのはじまり

(三六) たいへいきちゅうしんこうしゃく

(三七) だんのうらかぶとぐんき

【座本】片岡あやの

【名代】和泉屋、相模椽

【狂言作者】奈河来助、近松勘助

【演者】嵐三津五郎、中村治郎三、中山侑人、中村辰

蔵、嵐新蔵、中山一とく

N o 2 0

【地域】名古屋

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保九年(1838)〕戊五月十五日

【外題】(三八) 八陣守護城

(三九) 青楼詞相鑑

【読み】(三八) はちじんしゅごほんじょう

(三九) さとことばあわせかがみ

【座本】市川新蔵

【名代】松本屋治右衛門

【狂言作者】成田屋助

【演者】市川新蔵、中村里好、大谷門蔵、山下八百蔵、

松本民十郎

N o 2 1

【地域】不明

【座】不明

【上演年月日】不明

【外題】不明

【読み】不明

【座本】 海老屋左吉

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 近松治助、奈川万助

【演者】 片岡仁三郎、浅尾奥蔵、片岡政五郎、百村百太郎、谷村市雲

郎、谷村市雲

【備考】 半丁

N o 2 2

【地域】 名古屋

【座】 大須芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 二月十六日

【外題】 (四〇) 日本第一和布刈神事

【読み】 (四〇) につぼんだいいちめかりのしんじ

【座本】 海老屋左吉

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 近松治助、奈川万助

【演者】 片岡仁三郎、浅尾奥蔵、市川豊五郎、片岡政五郎、百村百太郎、谷村市雲

N o 2 3

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (四一) 宿無団七時雨傘

【読み】 (四一) やどなしだんしちしぐれのからかさ

【座本】 嵐十五郎

【名代】 大和屋宗三郎

【狂言作者】 並木正三

【演者】 関三十郎、大谷友右衛門、中山奥太郎、中村象太郎、嵐猪三郎、大谷とら蔵

【備考】 半丁

N o 2 4

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保六年(1835)) 未正月十三日

【外題】(四二) けいせい廓大門

(四三) 千種の乱れ咲

【読み】(四二) けいせいとおもんくち

(四三) ちぐさのみだれざき

【座本】中村歌路之助

【狂言作者】金澤龍玉、金澤芝助

【版元】内茶屋

【演者】中村歌右衛門、浅尾額十郎、中村歌六、沢村国

太郎、大谷友右衛門、藤川友吉、市川鰻十郎

N 0 2 5

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化二年(1805)〕丑三月吉日

【外題】(四四) 仮名手本忠臣蔵

【読み】(四四) かなでほんちゅうしんぐら

【座本】芳沢円次郎

【狂言作者】辰岡万作、奈河篤助

【演者】市川団蔵、芳沢いろは、浅尾工右衛門、あらし

三五郎、坂東考三郎、中村大吉、市川市蔵

N 0 2 6

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化二年(1805)〕丑三月十八日

【外題】(四五) 防州苗打松

【読み】(四五) ぼうしゅうなえうちまつ

【座本】嵐虎三郎

【狂言作者】近松徳三、並木半蔵

【版元】内茶屋

【演者】片岡仁左衛門、藤川八蔵、嵐猪三郎、浅尾友

蔵、嵐吉三郎、森田勘弥

N 0 2 7

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化十四年（1817）〕 丑三月十七日

【外題】（四六） 敵討御堂前

（四七） 莫恠踊化姿

【読み】（四六） かたきうちみどうのまえ

（四七） またかいなじゅうにばけ

【座本】 中村歌五郎

【狂言作者】 奈河七五三助、並木清造

【版元】 内茶屋

【演者】 中村歌右衛門、嵐三五郎、中山よしを、大谷友

右衛門、市川鰈十郎

N 028

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保五年（1834）〕 午二月七日

【外題】（四八） 金門五三桐

（四九） 男作五雁金

【読み】（四八） きんもんごさんのきり

（四九） おとこだていつつかりがね

【座本】 浅尾与三郎

【狂言作者】 奈河晴助、金澤龍玉

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、浅尾工右衛門、中村三光、中村

歌右衛門、浅尾勇次郎、市川鰈十郎

N 029

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保五年（1834）〕 午七月吉日

【外題】（五〇） 和訓水滸伝

（五一） 艶通当世姿

【読み】（五〇） やまとことばすいこでん

（五一） はでくらべとうせいすがた

【座本】 浅尾与三郎

【狂言作者】 奈河晴助

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、市川団藏、沢村国太郎、市川鯉

十郎、浅尾勇治郎、嵐小六、嵐富三郎

N 0 3 0

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 辰九月吉日

【外題】 (五二) 一谷嫩軍記

(五三) 花川戸幡随院長兵衛

(五四) 所作事

【読み】 (五二) いちのたにふたはぐんき

(五三) はなかわどばんずいんちようべえ

(五四) しょざごと

【座本】 市川銀之助

【名代】 木瓜屋吉五郎

【狂言作者】 向弥助、浜村橘

【演者】 市川白猿、市川鯉十郎、市川団内、嵐三勝、三

條浪江

N 0 3 1

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保三年(1832)) 辰九月二十日

【外題】 (五五) 八陣守護城

(五六) 傾城反魂香

(五七) 倭仮名在原系図

【読み】 (五五) はちじんしゅごほんじよう

(五六) けいせいはんごんこう

(五七) やまとがなありわらけいず

【座本】 中村松世

【狂言作者】 金澤龍玉、金澤芝助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村歌右衛門、中村歌七、中村松江、嵐小六、

中山新九郎、中村歌六、中山文七

N 0 3 2

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保三年（1832）〕 辰九月吉日

【外題】 (五九) 払暁浦朝霧

(六〇) 希露恵秋草

【読み】 (五九) ほのぼのとうらのあさぎり

(六〇) こいねがうゆゆのあさくさ

【座本】 嵐橘蔵

【狂言作者】 奈河一泉、近松正橘

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、岩井紫若、坂東寿太郎、浅尾工

右衛門、嵐璃寛

No 33

【地域】 大阪

【座】 道頓堀中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑三月吉日

【外題】 (六一) 仮名手本忠臣蔵

(六一) 義経千本桜

【読み】 (六一) かなでほんちゅうしんぐら

(六二) よしつねせんぼんざくら

【座本】 芳澤円次郎

【狂言作者】 辰岡万作、奈河篤助

【版元】 内茶屋半七

【演者】 市川団藏、芳沢いろは、浅尾工右衛門、あらし

三五郎、中村大吉、市川市蔵、三枡松五郎

No 34

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑九月吉日

【外題】 (六三) 松下嘉平治連歌評判

(六四) 傾城反魂香

【読み】 (六三) まつしたかへいじれんがひょうばん

(六四) けいせいはんごんこう

【座本】 中村梅松

【狂言作者】 金澤龍玉、金澤一洗

【版元】 内茶屋

【演者】 中村歌右衛門、片岡仁左衛門、中村松江、中山
文七、沢村国太郎、嵐璃寛、浅尾額十郎

N 035

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保四年(1833)) 巳八月吉日

【外題】 (六五) 伊達競阿国戯場

【読み】 (六五) だてくらべおくにかぶき

【座本】 坂東高麗吉

【狂言作者】 近松熊造、並木吾輔

【演者】 市川白猿、市川団藏、大谷友右門、藤川友吉、
嵐璃寛、坂東寿太郎

N 036

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保六年(1835)) 未閏七月吉日

【外題】 (六六) 源平布引瀧

(六七) 大塔宮曦鎧

(六八) 拳禪廓大通

【読み】 (六六) げんぺいぬのひきのたき

(六七) おおとうのみやあさひのよい

(六八) けんまわしさとのだい

【座本】 中村鶴之助

【狂言作者】 金澤吾輔、近松桂寿

【版元】 内茶屋

【演者】 中村歌右衛門、実川額十郎、中村芝翫、小川吉
太郎、嵐かのふ

N 037

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】(六九) 伽羅先代萩

(七〇) 勢州阿漕浦

(七一) 四季詠花若の色紙

【読み】(六九) めいぼくせんたいはぎ

(七〇) せいしゅうあこぎがうら

(七一) 不明

【座本】中嶋三甫松

【名代】大黒屋久四郎

【狂言作者】近松歌代助

【演者】瀬川多門、嵐与市、中嶋三甫藏、中村金助、浅

尾大吉、中村鹿之助

N o 3 8

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十一年(1840)〕子正月吉日

【外題】(七二) けいせい雪月花

【読み】(七二) けいせいせつげつか

【座本】中村富助

【狂言作者】金澤龍玉、奈河政助

【版元】内茶屋

【演者】中村富十郎、坂東寿太郎、中山文五郎、尾上多

見造、片岡我童

N o 3 9

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十一年(1840)〕子正月吉日

【外題】(七三) けいせい青陽■(■は集偏に鳥)

【読み】(七三) けいせいのはるのと

【座本】市川市河藏

【狂言作者】木村実助、沢嵐納老

【版元】内茶屋

【演者】市川団藏、中山よしを、浅尾工右衛門、嵐かの

ふ、中村友三、中村歌六、中村芝翫

N o 4 0

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保八年（1837）〕 酉二月吉日

【外題】（七四） けいせい玉手綱

（七五） 熊坂物見松

【読み】（七四） けいせいたまのたずな

（七五） くまさかものみまつ

【座本】 中村梅太郎

【狂言作者】 金澤龍玉、西澤綺語堂

【版元】 内茶屋

【演者】 中村玉助、中村歌右衛門、中村歌六、浅尾工右

衛門、三柝弥之助、嵐かのふ、中村富十郎

No41\No42

【地域】 京都

【座】 四条南側

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保七年（1836） 申十一月吉日

【外題】（七六） 寿式三

（七七） 八陣守護城

（七八） 油商人廓話

【読み】（七六） ことぶきしきさん

（七七） はちじんしゅごのほんじょう

（七八） あぶらうりくるわばなし

【名代】 都万太夫、布袋屋梅之丞

【狂言作者】 奈河政橋、奈河政助

【版元】 和泉屋又兵衛

【演者】 片岡仁左衛門、中村富十郎、大谷友右衛門、嵐

三五郎、嵐璃寛、市川助十郎

【備考】 浪花 わた正筆

番付上下二枚綴り

No43

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑正月吉日

【外題】(七九) 花雪歌清水

【読み】(七九) はなふぶきうたのなごころ

【座本】中村梅吉

【狂言作者】金澤龍玉、金澤龍助

【版元】内茶屋

【演者】中村歌右衛門、中村松江、中山文七、沢村国太郎、中村歌七、市川団藏、浅尾額十郎

No 44

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保八年(1837)〕酉正月吉日

【外題】(八〇) けいせい小倉色紙

【読み】(八〇) けいせいおぐらのしきし

【座本】嵐三津橘

【狂言作者】奈河一甫、並木半造

【版元】内茶屋

【演者】片岡仁左衛門、大谷友右衛門、浅尾与六、嵐璃

光、嵐璃寛、市川助十郎

No 45

【地域】名古屋

【座】橘町芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十四年(1843)〕卯十月吉日

【外題】(八一) 仮名手本忠臣蔵

【読み】(八一) かなでほんちゅうしんぐら

【座本】綿屋小兵衛

【名代】和泉屋、相模椽

【狂言作者】奈河福助

【演者】嵐与市、山下八百蔵、浅尾徳二、中山福太郎、市川鯉三郎、小川国治郎

No 46

【地域】伊勢

【座】中の地蔵芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年(1835)〕未四月上旬

【外題】(八二) 一谷嫩軍記

(八三) 義経腰越状

(八四) 打込縁十徳

【読み】(八二) いちたにふたばぐんき

(八三) よしつねこしごえじょう

(八四) うちこんだゆかりのじつとく

【座本】中村駒太郎

【名代】豆腐屋源藏

【狂言作者】金澤龍玉、金沢金助

【演者】中村歌右衛門、嵐かのふ、瀬川路之助、中山よ

しを、嵐吉三郎、浅尾工右衛門

N o 4 7

【地域】京都

【座】不明

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年(1835)〕未五月二十三日

【外題】(八五) 男哉婦将門

(八六) 摂州合法辻

(八七) 宿無団七時雨傘

(八八) 五枚続吾妻錦絵

【読み】(八五) おとこなりけりおんなまさかど

(八六) せつしゅうがっぱうがつじ

(八七) やどなしだんしちしぐれのからかさ

(八八) ごまいつづきあづまのにしきえ

【名代】亀谷糸之丞、早雲長太夫

【演者】中村芝翫、片岡仁左衛門、浅尾工右衛門、山下

金作、中村東藏、中村芝藏

【備考】〔未五月二十三日より京芝居大入〕の書込あり

二枚組の内、下の番付

N o 4 8

【地域】大阪

【座】道頓堀角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年(1835)〕未三月吉日

【外題】(八九) 復讐二嶋英勇記

【外題】(九〇) 堂嶋救入浜

【読み】(八九) かたきうちにとうえいゆうき

(九〇) おとこいっぴきすくいのたてひき

【座本】中村鶴之助

【狂言作者】金澤龍玉、金沢近助

【版元】内茶屋

【演者】中村歌右衛門、中村富士郎、中村芝翫、浅尾与

六、小川吉太郎、中村歌七

N 0 4 9

【地域】伊勢

【座】桑名春日芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年(1835)〕未七月五日

【外題】(九二) 勢州阿漕浦

(九二) 信州川中嶋合戦

(九三) 男立恋深川

【読み】(九二) せいしゅうあこぎがうら

(九二) しんしゅうかわなかつせん

(九三) おとこだてこいのふかがわ

【座本】嵐三津橘

【名代】蓬萊屋千代吉

【狂言作者】奈河政橘

【演者】嵐璃寛、片岡南蔵、嵐徳三郎、中村勇三、中村

歌六、嵐三五郎

N 0 5 0

【地域】伊勢

【座】〔桑名春日芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年(1835)〕未七月十九日

【外題】(九四) 源平布引瀧

(九五) 義臣伝説切講釈

(九六) 文月恨切子

【読み】(九四) げんべいぬのびきのたき

(九五) ぎしんでんよみきりこうしやく

(九六) ふみつきうらみのきりこ

【座本】嵐三津橘

【名代】蓬萊屋千代吉

【狂言作者】 奈河政橘、奈河葉助

【演者】 嵐璃寛、片岡市蔵、中村友三、中村歌六、嵐三

五郎、中山文五郎

N 051

【地域】 名古屋

【座】 橘町芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保六年（1835）未閏七月二十日

【外題】（九七） 絵合いろは短歌

（九八） 源平布引瀧

（九九） 隅田川続碇

（一〇〇） 葱例跡色歌

【読み】（九七） えあわせいろはたんか

（九八） げんぺいぬのびきのたき

（九九） すみだがわごにちのおもかげ

（一〇〇） しのぶれどいろいろのことは

【名代】 伊勢屋孫三郎、京屋佐蔵

【太夫本】 三保屋栄八

【狂言作者】 幸岩周蔵、奈河灰毒

【演者】 関三十郎、中山楽之助、関歌助、市川八百蔵、

姉川仲蔵、尾上伝三郎

N 052

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】（一〇一） 妹背山婦女庭訓

【読み】（一〇一） いもせやまおんなていきん

【名代】 伊勢屋孫三郎、京屋佐蔵

【狂言作者】 奈河力輔、金沢百輔

【演者】 岩井杜若、嵐与市、中嶋三甫蔵、浅尾春十郎、

浅尾大吉、市川八百蔵

【備考】 半丁

N 053

【地域】 京都

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (一〇二) 敵討殿下茶屋聚

(一〇三) 往古曽根崎村囃

【読み】 (一〇二) かたきうちてんがちややむら

(一〇三) むかしむかしそのざきむらのうわさ

【名代】 都万太夫、布袋屋梅之丞

【狂言作者】 近松歌女祐、近松歌根助

【演者】 市川鰯十郎、中山文七、山下八百藏、嵐三五

郎、中山兵太郎、中山新九郎、市川新車

【備考】 二枚組の内、下の番付

N 054

【地域】 名古屋

【座】 橘町芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 六月吉日

【外題】 猿曳門出諷

【読み】 さるまわしかどでのひとふし

【座本】 嵐勝三郎

【名代】 和泉屋、相模椽、辰巳屋猪三郎

【狂言作者】 奈河治助、奈河寿造

【演者】 浅尾額十郎、嵐富三郎、沢村長四郎、浅尾楽十

郎、中山文五郎

【備考】 半丁

N 055

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保九年(1838)) 戌十月二日

【外題】 (一〇四) 仮名手本忠臣藏

【読み】 (一〇四) かなでほんちゅうしんぐら

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稲荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河条助、桂屋章三

【演者】 尾上菊五郎、尾上松助、尾上菊治郎、三升松五

郎、尾上伝三郎、中山新九郎

N 056

【地域】名古屋

【座】清寿院芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保五年（1834）〕午四月十六日

【外題】（一〇五）義経千本桜

（一〇六）菅原伝授手習鑑

【読み】（一〇五）よしつねせんぼんざくら

（一〇六）すがわらでんしゅてならいかがみ

【座本】千代屋七右衛門

【太夫】竹本筆太夫、豊竹巴太夫

【名代】海老屋左吉、稲葉屋伊八

【狂言作者】

【演者】吉岡千四、吉岡新治、吉岡辰治、吉岡松助、吉

岡新十郎、吉岡三吉

N 057

【地域】名古屋

【座】橘町芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】未四月三日

【外題】（一〇七）荻萱桑門筑紫■（■は車偏に栄）

（一〇八）都鳥潤色引

【読み】（一〇七）かるかやどうしんつくしのいずと

（一〇八）みやこどりいろのたてひき

【名代】伊勢屋孫三郎

【狂言作者】竹光造、橘金輔

【演者】市川滝藏、浅尾山藏、中村富次郎、市川秀次郎

N 058

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】天保五年（1834）午三月十九日

【外題】（一〇九）契情筑紫麩

【読み】（一〇九）けいせいつくしのつまゝと

【狂言作者】奈河力輔、竹光造

【演者】嵐与市、尾上伝三郎、片岡松江、坂東八重桐、

浅尾口山、中山楽之助、市川国三郎

N 059

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】天保七年(1836)申六月九日

【外題】(一一〇) 敵討崇禪寺馬場

(一一一) 荳菴桑門筑紫■(■は車偏に栄)

【読み】(一一〇) かたちうちそうぜんじばば

(一一一) かるかやどうしんつくしのいずと

【名代】和泉屋、相模掾

【狂言作者】出来島仙助、浅田弥作

【版元】内茶屋

【演者】片岡仁左衛門、浅尾与六、尾上多見三郎、中村

歌南女、片岡我当、市川米十郎

N 060

【地域】名古屋

【座】〔橘町芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文政四年(1821)〕巳九月十六日

【外題】(一一二) 立春姫小松

(一一三) 阿波能鳴門白浪

(一一四) 廓文章

【読み】(一一二) りっしゅんひめこまつ

(一一三) あわよくなるとのしらなみ

(一一四) くるわぶんしょう

【座本】津屋長三郎、沢屋与惣五郎

【名代】辰巳猪三郎

【狂言作者】奈河力助、金沢仲助

【演者】坂東三津五郎、藤川花友、浅尾奥山、中山みよ

し、浅尾勇治郎、坂東襄助、嵐富三郎

N 061

【地域】不明

【座】不明

【番付種別】役割番付

【上演年月日】一月六日

【外題】(一一五) 式三番叟

(一二六) 菅原伝授手習鑑

(一二七) 織合檻樓錦

【読み】(一二五) しきさんばそう

(一二六) すがわらでんしゆてならいかがみ

(一二七) おりあわせつづれのにしき

【座本】海老屋左吉

【名代】千代屋七右衛門

【狂言作者】近松恒助、奈川五々助

【演者】坂東秀五郎、嵐三蔵、片岡仁左衛門、芳沢いろ

は、片岡仁三郎、嵐吉五郎

N o 6 2

【地域】名古屋

【座】〔若宮芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化十年(1813) 酉七月二十六日〕

【外題】(一一八) 色楓累奇談

(一二九) 契情東亀鑑

【読み】(一一八) いろもみじかさねものがたり

(一二九) けいせいあずまかがみ

【座本】市川新蔵

【狂言作者】増山良助

【演者】松本幸四郎、岩井半四郎、市川宗三郎、坂東鶴

十郎、沢村四郎五郎

N o 6 3

【地域】名古屋

【座】橘町芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文政十一年(1828) 子四月上旬〕

【外題】(一二〇) ひらかな盛衰記

(一二二) 国訛嫩笈摺

【読み】(一二〇) ひらかなせいすいき

(一二二) くになまりふたばおいずる

【太夫本】播磨屋又兵衛

【名代】京屋佐蔵

【狂言作者】井筒一斎、沢嵐納老

【演者】 嵐橘三郎、嵐かのふ、萩野伊太郎、沢村国太郎、大谷友右衛門

N 0 6 4

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 二月十六日

【外題】 (一二二) 日本第一和布刈神事

【読み】 (一二二) につぽんだいいいちめかりのしんじ

【座本】 海老屋左吉

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 近松治輔、奈川万助

【演者】 片岡仁三郎、浅尾奥蔵、市川重五郎、中村金

吾、百村百太郎、百村猪三郎

N 0 6 5

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 四月十四日

【外題】 (一二三) けいせい筑紫翫

【読み】 (一二三) けいせいつくしのつまゝと

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 海老屋左吉

【狂言作者】 奈河晴助、沢嵐市三

【演者】 嵐吉三郎、沢村田之助、中山来助、嵐冠十郎、

嵐猪三郎

N 0 6 6

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化十二年(1815) 亥五月二十八

日)

【外題】 (一二四) 小野道風青柳硯

(一二五) 大経師昔暦

【読み】 (一二四) おののとうふうあおやぎすずり

(一二五) だいきょうじむかしごよみ

【狂言作者】 奈河晴助、沢嵐市三

【演者】 嵐吉三郎、沢村田之助、中山来助、嵐冠十郎、

嵐猪三郎、松嶋義左衛門、嵐猪三郎

N 0 6 7

【地域】 名古屋

【座】〔清寿院芝居〕

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文政三年（1820）辰九月〕

【外題】（一二六）三月開嬉心船橋

【読み】（一二七）やよいにひらくあんどふなばし

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 海老屋左吉

【狂言作者】 並木満丸、近松常助

【演者】 片岡仁左衛門、浅尾工左衛門、沢村国太郎、市

川団藏、嵐富三郎、市川筆五郎、三升亀五郎

N 0 6 8

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文政三年（1820）辰九月〕

【外題】（一二八）植木屋文藏廓色糸

【読み】（一二八）うえきやぶんぞうくるわのいろいろと

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 海老屋左吉

【狂言作者】 並木満丸、近松常助

【演者】 市川団藏、嵐富三郎、三桝他人市川虎藏、沢村

国太郎、三桝市松、浅尾豊五郎

【備考】 半丁

N 0 6 9

【地域】〔名古屋〕

【座】〔橘町芝居〕

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文政元年（1818）寅四月吉日〕

【外題】（一二九）寿式三

（一三〇）柵自来也談

（一三一）倭仮名在原系図

【読み】 (一二九) ことぶきしきさん

(一三〇) やえむすびじらいやものがたり

(一三一) やまとがなありわらけいず

【座本】 菊屋半七

【名代】 伊勢屋富三郎

【狂言作者】 近松三九助、近松多助

【演者】 市川鰍十郎、藤川花友、片岡小六郎、大谷友右

衛門、坂東重太郎、市川門之助

N 070

【地域】 (名古屋)

【座】 (橘町芝居)

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文政元年 (1818) 寅五月十日)

【外題】 (一二三二) 太平記忠臣講釈

(一二三三) 隅田春妓女容性

【読み】 (一二三二) たいへいきちゆうしんこうしゃく

(一二三三) すだのはるげいこかたぎ

【座本】 菊屋半七

【太夫本】 沢屋与三五郎

【名代】 伊勢屋富三郎

【狂言作者】 並木正武

【演者】 市川鰍十郎、藤川花友、大谷友右衛門、坂東重

太郎、市川門之助、市川浜蔵

N 071 ~ N 072

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文政十年 (1827) 亥六月四日)

【外題】 (一二三四) 恋女房染分手綱

(一二三五) 鐘もろとも夢鯨鞘

【読み】 (一二三四) こいにようぼうそめわけたづな

(一二三五) かねもろともゆめのさめざや

【太夫本】 山下秀治郎

【名代】 松本屋増太郎、美濃屋勘右衛門

【狂言作者】 近松慈輔、駒賞助

【演者】 坂東寿太郎、浅尾奥山、坂東国五郎、岩井かほ

よ、中村芝翫、藤川友吉

【備考】 番付上下二枚綴り

N 073

【地域】 名古屋

【座】 橘町芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政九年（1826）〕 戌六月四日

【外題】 （一三六） 蘆屋道満大内鑑

（一三七） 関取千両幟

【読み】 （一三六） あしやどうまんおおうちかがみ

（一三七） せきとりせんりょうのぼり

【座本】 嵐勝三郎

【狂言作者】 奈河勘助、奈河熊吉

【演者】 浅尾額十郎、沢村国太郎、嵐橘三郎、浅尾勇次

郎、嵐富三郎

N 074

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政七年（1824）〕 申九月十日

【外題】 （一三八） 秋葉権現廻船語

【読み】 （一三八） あきばごんげんかんせんばなし

【座本】 津屋長三郎

【太夫本】 中村常治郎

【名代】 美濃屋勘右衛門

【狂言作者】 浜松歌国、奈河九馬藏

【演者】 片岡仁左衛門、中村歌六、桐山紋治、嵐来芝、

浅尾額十郎、中村三代藏

N 075

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政七年（1824）〕 申十月十二日

【外題】 （一三九） 拳禪廓大通

【読み】 （一三九） けんまわしさとのだいっつう

【座本】 津屋長三郎

【太夫本】 中村常治郎

【名代】 美濃屋勘右衛門

【狂言作者】 奈河九馬藏、一色政助

【版元】 松屋

【演者】 片岡仁左衛門、中村歌六、桐山紋治、嵐来芝、

浅尾額十郎、中村三代藏

N 076

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政七年（1824）申〕

【外題】 〔二四〇〕 世話料理八百屋献立

【読み】 〔二四〇〕 せわりようりやおやこんだて

【狂言作者】 奈河九馬藏、一色政助

【演者】 嵐来芝、中村歌六、桐山紋治、浅尾額十郎

【備考】 半丁

N 077

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政七年（1824）申十月十二日〕

【外題】 〔二四一〕 秋葉権現後語礎

〔二四二〕 世話料理八百屋献立

【読み】 〔二四一〕 あきばごんげんごにちのいしずえ

〔二四二〕 せわりようりやおやこんだて

【座本】 津屋長三郎

【太夫本】 中村常治郎

【名代】 美濃屋勘右衛門

【狂言作者】 奈河九馬藏、一色政助

【演者】 片岡仁左衛門、中村歌六、桐山紋治、嵐来芝、

浅尾額十郎、中村三代藏

N 078

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文化十二年（1815）十一月一日〕

【外題】 (一四三) 恋女房染分手綱

【読み】 (一四三) こいにようぼうそめわけたづな

【座本】 海老屋左吉

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 奈河十喜助、奈河鶴助

【演者】 片岡仁左衛門、市川市紅、片岡愛之助、佐の川

花妻、片岡小六郎、富士松三十郎

N 079

【地域】 名古屋

【座】 稻荷芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「文化十一年 (1814) 戌」

【外題】 (一四四) 義経千本桜

(一四五) 錦画見歌戯山崎

【読み】 (一四四) よしつねせんぼんざくら

(一四五) にしきえでみたかぶきやまざき

【座本】 市川新蔵

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 高松喜三治、成田屋助

【演者】 松本幸四郎、中村里好、沢村金平、岩井亀次

郎、花井才三郎、山下八百蔵、関三十郎

N 080

【地域】 「名古屋」

【座】 「稻荷芝居」

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「文化十一年 (1814) 戌六月十七日」

【外題】 (一四六) 錦画見歌戯山崎

(一四七) 三経恋乱菊

(一四八) 散書仇名かし

(一四九) 道行思深川

【読み】 (一四六) にしきえでみたかぶきやまざき

(一四七) みつくないこいのらんぎく

(一四八) ちらしがきあだなかし

(一四九) みちゆきおもいのふかがわ

【座本】 市川新蔵

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 高松喜三治、成田屋助

【演者】 松本幸四郎、市川団之助、花井才三郎、関三
郎、吾妻藤蔵

N 0 8 1

【地域】〔名古屋〕

【座】〔若宮芝居〕

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文化十年（1813）酉七月二十六日〕

【外題】（一五〇） 色楓累奇談

（一五一） 積恋雪関扉

（一二二） 契情東亀鑑

【読み】（一二〇） いろもみじかさねものがたり

（一二一） つもるこいゆきのせきと

（一二二） けいせいあずまかがみ

【座本】 市川新蔵

【名代】 松本屋治右衛門

【狂言作者】 増山良助、槌井瓢助

【演者】 松本幸四郎、市川宗三郎、岩井半四郎、坂東鶴

十郎、沢村四郎五郎

N 0 8 2

【地域】〔名古屋〕

【座】〔若宮芝居〕

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文化十年（1813）酉六月二十八日〕

【外題】（一二三） 伊達競阿国戯場

（一二四） お染久松色読販

（一二五） 心中翌の噂

【読み】（一二三） だてくらべおくにかぶき

（一二四） おそめひさまつうきなのよみうり

（一二五） しんじゅうあすのうわさ

【座本】 市川新蔵

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 増山良助、槌井瓢助

【演者】 松本幸四郎、市川宗三郎、岩井半四郎、坂東鶴

十郎、沢村四郎五郎、沢村染五郎、佐の川花妻

N 0 8 3

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (一五六) 鐘もろとも夢鮫鞘

【読み】 (一五六) かねもろともゆめのさめざや

【座本】 菊屋半七

【名代】 伊勢屋富三郎

【狂言作者】 奈河卯十郎

【演者】 市川鰈十郎、藤川花友、片岡小六郎、大谷友右

衛門、坂東重太郎

【備考】 半丁

N 084

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (一五七) けいせい倭莊子

(二五八) 宿無団七時雨傘

【読み】 (二五七) けいせいやまとそうじ

(二五八) やどなしだんしちしぐれのからかさ

【座本】 菊屋半七

【名代】 伊勢屋富三郎

【狂言作者】 奈河宇十郎

【演者】 市川鰈十郎、藤川花友、片岡小六郎、嵐璃光、

大谷友右衛門、坂東重太郎

N 085

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文政七年(1824)) 申三月二十二日

【外題】 (二五九) 越前三国夫婦塚

【読み】 (二五九) えちぜんみくにふうふづか

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稻荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河五十助、奈河平三

【演者】 嵐三津五郎、嵐福松、坂東七五郎、浅尾徳二、
嵐三勝、市川鶴藏、尾上芙蓉

N 086

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「文化九年（1812）申四月十八日

【外題】 （二六〇） 仮名手本忠臣蔵

（二六一） 江戸紫娘道成寺

【読み】 （二六〇） かなでほんちゅうしんぐら

（二六一） えどむらさきむすめどうじょうじ

【座本】 松島吉松

【名代】 和多屋源兵衛

【狂言作者】 付本三良平

【版元】 大松店

【演者】 市川八百蔵、松嶋清蔵、芳沢いろは、松本駒

蔵、榊山四郎太郎

N 087

【地域】 名古屋

【座】 橘町常芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「文政六年（1823）未三月五日

【外題】 （二六一） 接合北国梅

（二六三） 天竺徳兵衛入船物語

【読み】 （二六一） つぎあわせこしじのめいぼく

（二六三） てんじくとくべえいりふなものがた

り

【座本】 津屋長三郎

【名代】 辰巳屋猪三郎

【狂言作者】 坂東笑亀

【演者】 中村福之助、市川国作、中村花妻、松嶋巳之

助、嵐寿之助

N 088

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保三年（1832）〕辰十月吉日

【外題】（二六四）三月開嬉心船橋

（二六五）隅田春妓女容性

【読み】（二六四）やよいにひらくあんどのふなばし

（二六五）すだのはるげいこかたぎ

【名代】松本屋増太郎

【狂言作者】並木半造、奈河葉輔

【演者】浅尾与六、尾上伝三郎、坂東大八、中山南枝、

嵐三五郎、嵐吉三郎

N 0 8 9

【地域】名古屋

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保三年（1832）〕辰十一月吉日

【外題】（二六六）義経千本桜

（二六七）隅田春妓女容性

（二六八）同計略花吉野山

【読み】（二六六）よしつねせんぼんざくら

（二六七）すだのはるげいこかたぎ

（二六八）とばかりはなのよしのやま

【名代】松本屋増太郎

【狂言作者】並木半造、奈河葉輔

【演者】浅尾与六、尾上伝三郎、坂東大八、中山南枝、

嵐三五郎、嵐吉三郎

N 0 9 0

【地域】名古屋

【座】稲荷芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔午四月十四日〕

【外題】（二六九）艶競石川染

（二七〇）花衣いろは縁起

【読み】（二六九）はでくらべいしかわぞめ

（二七〇）はなころもいろはえんぎ

【座本】亀谷善兵衛

【名代】京屋吉五郎

【狂言方】並木重輔

【演者】 嵐松治郎、嵐蘭蔵、嵐甚吉、嵐安治郎、中村市蔵

N 091

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 八月八日

【外題】 (一七一) 敵討義恋柵

【読み】 (一七一) かたきうちちこいのしがらみ

【座本】 稲荷屋伝兵衛

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 奈河東橘、奈河常助

【演者】 中山紋十郎、片岡仁三郎、坂東七五郎、中村歌門、中村市蔵、嵐文吾

N 092

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保四年(1833)) 巳正月吉日

【外題】 (二七二) けいせい黄金瓢

(二七三) 桐寿神楽式三

【読み】 (二七二) けいせいこがねのせんなり

(二七三) きりことぶきかくらしきさん

【座本】 海老屋左吉

【名代】 千代屋七右衛門、稲葉屋伊八

【狂言作者】 近松千葉軒

【版元】 内茶屋

【演者】 嵐三津五郎、大谷万作、坂東のしほ、片岡三太郎、谷村楯八

N 093

【地域】 名古屋

【座】 橘町芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保四年(1833) 巳七月二十四日

【外題】 (二七四) 契情染分手綱

【読み】 (二七四) けいせいそめわけたづな

【座本】 沢村紀之助

【名代】 伊勢屋孫三郎

【狂言作者】 奈河政輔、竹光造

【演者】 中山新九郎、浅尾左五郎、中嶋仲蔵、沢村三吉、中山来助、浅尾大吉

N 094

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保三年（1832）辰三月吉日

【外題】（二七五）絵本殿下茶屋聚

【読み】（二七五）えほんてんがちゃやむら

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稲荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河十八助、竹光造

【版元】 内茶屋

【演者】 中山新九郎、中村京十郎、中山仲蔵、姉川勇次郎、浅尾奥次郎

N 095

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保三年（1832）辰三月吉日

【外題】（二七六）国詞恋鞘割

【読み】（二七六）くにことばこいのさやわり

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稲荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河十八助、竹光造

【演者】 中山新九郎、中村京十郎、姉川勇治郎、浅尾奥治郎

【備考】 半丁

N 096

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保三年（1832）辰三月吉日

【外題】 (二七七) 小栗判官車街道

【外題】 (二七八) 国詞恋鞘割

(二七七) おぐりはんがんくるまかいどう

(二七八) くにごことばこいのさやわり

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稻荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河十八助、竹光造

【演者】 中山新九郎、中村京十郎、姉川勇治郎、浅尾奥

治郎、中村歌十郎

N 097

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保三年 (1832)) 辰四月吉日

【外題】 (二七九) 加々見山廓写本

【読み】 (二七九) かがみやまくるわのきさがき

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稻荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河十八助、竹光造

【版元】 内茶屋

【演者】 中山新九郎、中村京十郎、中山仲蔵、姉川勇治

郎、浅尾奥治郎、中村歌十郎

N 098

【地域】 名古屋

【座】 (清寿院芝居)

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保三年 (1832)) 辰四月吉日

【外題】 (二八〇) 恋飛脚大和往来

【読み】 (二八〇) こいびきやくやまとおうらい

【座本】 千代屋七右衛門

【名代】 稻荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】 奈河十八助、竹光造

【演者】 中山新九郎、中村京十郎、中山仲蔵、姉川勇治

郎、浅尾奥治郎、中村歌十郎

【備考】 半丁

N 099

【地域】名古屋

【座】清寿院芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保三年（1832）〕辰五月吉日

【外題】（一八二）けいせい繁夜話

【読み】（一八二）けいせいしげしげやわ

【座本】千代屋七右衛門

【名代】稲荷屋伝兵衛、海老屋左吉

【狂言作者】奈河十八助、竹光造

【版元】内茶屋

【演者】中山新九郎、中村京十郎、中山仲藏、姉川勇治
郎、浅尾奥次郎、中村歌十郎

No100

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】天保五年（1834）午二月十五日

【外題】（一八二）寿式三

（一八三）けいせい稚児淵

【読み】（一八二）ことぶきしきさん

（一八三）けいせいちごがふち

【名代】和泉屋、相模掾

【狂言作者】奈河力輔、竹光造

【演者】嵐与市、尾上伝三郎、浅尾口山、片岡松江、市
川团三郎、中山楽之助

No101

【地域】不明

【座】不明

【番付種別】役割番付

【上演年月日】不明

【外題】（一八四）恋詞北廓

【読み】（一八四）ぜんせいいきじのよしわら

【名代】和泉屋、相模掾

【狂言作者】奈河力輔、竹光造

【演者】嵐与市、尾上伝三郎、浅尾口山、片岡松江、市

川团三郎、中山楽之助

【備考】 半丁

No102

【地域】 名古屋

【座】 大須芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保五年(1834) 午三月十九日

【外題】 (二八五) 契情筑紫嶽

【読み】 (二八五) けいせいつくしのつまごと

【名代】 和泉屋、相模掾

【狂言作者】 奈河力輔、竹光造

【演者】 嵐与市、尾上伝三郎、浅尾口山、片岡松江、市

川団三郎、中山楽之助、坂東八重桐

No103

【地域】 名古屋

【座】 大須芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保五年(1834) 午四月十五日

【外題】 (二八六) 傾城楊柳桜

(二八七) 浪速渴恋の結柏

【読み】 (二八六) けいせいやなぎさくら

(二八七) なにわがたこいのおもかげ

【名代】 和泉屋、相模掾

【狂言作者】 奈河力輔、竹光造

【演者】 嵐与市、尾上伝三郎、浅尾口山、片岡松江、市

川団三郎、中山楽之助、坂東八重桐

No104

【地域】 名古屋

【座】 大須芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保五年(1834) 午五月五日

【外題】 (二八八) 復讐二嶋英勇記

(二八九) 伊勢音頭恋寝ぬ

(二九〇) 壇浦兜軍記

【読み】 (二八八) かたきうちふたりえいゆうき

(二八九) いせおんどこいのねたば

(二九〇) だんのうらかぶとぐんき

【名代】和泉屋、相模掾

【狂言作者】奈河力輔、竹光造

【演者】嵐与市、中山采助、浅尾口山、片岡松江、市川

団三郎、中山楽之助、坂東八重桐

No105

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】天保五年（1834）午五月二十九日

【外題】（一九一）近江源氏先陣館

（一九二）文月恨切子

（一九三）姫山姥

（一九四）本朝二十四孝

【読み】（一九一）おうみげんじせんじんやかた

（一九二）ふみつきうらみのきりこ

（一九三）こもちやまうば

（一九四）ほんちようにじゅしこう

【名代】和泉屋、相模掾

【狂言作者】奈河力輔、竹光造

【演者】三枅源之助、嵐与市、片岡松江、市川団三郎、

坂東三津五郎

No106

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】天保五年（1834）午六月十七日

【外題】（一九五）菅原伝授手習鑑

（一九六）名作切籠曙

（一九七）風流都おどり

【読み】（一九五）すがわらでんしゅてならいかのみ

（一九六）めいさくきりこのあけぼの

（一九七）ふうりゅうみやこおどり

【名代】和泉屋、相模掾

【狂言作者】鶴屋直江、奈河力輔

【演者】三枅源之助、嵐与市、浅尾口山、片岡松江、市

川団三郎、中山楽之助

N o 1 0 7

【地域】名古屋

【座】清寿院芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保五年（1834）〕午八月十日

【外題】（二九八）濃紅葉小倉色紙

（二九九）往古曾根崎村囃

（二〇〇）道行業種の糸遊

【読み】（二九八）こいもみじおぐらのしきし

（二九九）むかしむかしそのざきむらのうわさ

（二〇〇）みちゆきなたねのいとゆう

【名代】海老屋左吉、稲葉屋伊八

【演者】三柵源之助、中山南枝、浅尾鬼丸、嵐三五郎、

浅尾奥治郎

N o 1 0 8

【地域】名古屋

【座】清寿院芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保五年（1834）〕午十月十四日

【外題】（二〇一）けいせい品評林

（二〇二）双妻恋相植

【読み】（二〇一）けいせいしなさだめ

（二〇二）ふたりづまこいのあいづち

【名代】海老屋左吉、稲葉屋伊八

【狂言作者】奈河葉助、竹光造

【演者】三柵源之助、中山南枝、浅尾鬼丸、嵐三五郎、

浅尾奥治郎

N o 1 0 9

【地域】名古屋

【座】橘町芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年（1835）〕未三月十五日

【外題】（二〇三）桜武士妹背鉢植

【読み】（二〇三）はなはさくらざいもせのはちうえ

【名代】伊勢屋孫三郎

【狂言作者】奈河養祐、橘全輔

【演者】市川寿之助、市川滝蔵、中村富次郎、中村翫之助、中村駒三郎

【備考】半丁

N o 1 1 0

【地域】名古屋

【座】橘町芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年（1835）未三月三十日

【外題】（二〇四）南総里見八犬伝

【読み】（二〇四）なんそうさとみはっけんでん

【名代】伊勢屋孫三郎

【狂言作者】鶴幸誘、橘全輔

【演者】市川寿之助、市川滝蔵、市川松蔵、中村富次郎、中村翫之助、中村駒三郎

N o 1 1 1

【地域】名古屋

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年（1835）未四月十八日

【外題】（二〇五）けいせい筑紫嶽

【読み】（二〇五）けいせいつくしのつまゝと

【名代】松本屋増太郎

【狂言作者】奈河政橋、奈河泉助

【演者】実川額十郎、中村歌六、片岡我升、嵐璃寛、実川八百蔵

【外題】（二〇六）五大力恋緋

【読み】（二〇六）ごだいりきこいのふうじめ

N o 1 1 2

【地域】名古屋

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文政十三年（1830）寅四月三日

【外題】（二〇七）舞扇南柯話

【読み】（二〇七）まいおうぎなんかのはなし

【座本】竹田半二

【名代】菊屋半七、藤屋利八

【狂言作者】 奈河利作、奈河治良?作

【演者】 嵐徳三郎、大谷万作、中山一徳、谷村哥情、榊山四良三郎

No113

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 子三月二十九日

【外題】 (二〇八) けいせい輝草紙

【読み】 (二〇八) けいせいいなづまそうし

【名代】 菊屋半七、藤屋利八

【狂言作者】 奈河利作、奈河次良作

【演者】 谷村哥情、中村辰蔵、藤川三代蔵、中山一とく、榊山四郎三郎

No114

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (二〇九) 碁太平記白石噺

(二一〇) 義経千本桜

(二一一) 源平布引瀧

【読み】 (二〇九) ごたいへいきしらいしばなし

(二一〇) よしつねせんぼんざくら

(二一一) げんぺいぬのひきのたき

【座本・名代】 萬屋庄九郎

【狂言作者】 奈川勇吉

【演者】 荒木亀三郎、藤川巳之松、市川松三郎、中川亀蔵、市川鶴蔵

No115

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化十一年(1814)) 戊正月十三日

【外題】 (二二二) けいせい釣鐘桜

(二二三) 許給拙振袖

【読み】(二二二) けいせいかねのなるき

(二二三) おそれありおにもじゅうはち

【座本】中村歌五郎

【狂言作者】市岡禎記

【版元】内茶屋

【演者】中村歌右衛門、片岡仁左衛門、中山新九郎、中

山よしを、中村大吉

N o 1 1 6

【地域】不明

【座】不明

【番付種別】役割番付

【上演年月日】不明

【外題】(二二四) 太平記忠臣講釈

【読み】(二二四) たいへいきちゅうしんこうしゃく

【座本】片岡国之助

【名代】松代屋清吉

【狂言作者】市岡禎記

【演者】片岡仁左衛門、中山文七、中村歌六、山科政五

郎、中山新九郎

N o 1 1 7

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化十年(1813)〕西四月二十日

【外題】(二二五) 小野道風青柳硯

(二二六) 八重霞浪花浜菰

【読み】(二二五) おののとうふうあおやぎすずり

(二二六) やえがすみなにわはまおぎ

【座本】市川善太郎

【狂言作者】奈川七五三助、奈川晴助

【版元】内茶屋

【演者】嵐吉三郎、浅尾工左衛門、浅尾万吉、尾上鯉三

郎

N o 1 1 8

【地域】大阪

【座】若太夫芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文化十一年（1814）〕 戊正月

【外題】（二二七） けいせい楊柳桜

（二二八） 三津濃汐汲

【読み】（二二七） けいせいやなぎさくら

（二二八） みつのしおくみ

【座本】 中村歌木

【狂言作者】 奈河九二助、奈河来助

【演者】 嵐来芝、尾上新七、浅尾奥山、嵐来藏

N o 1 1 9

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】（二二九） 奥州安達原

【読み】（二二九） おうしゅうあだちがはら

【名代】 浪花屋清兵衛

【狂言作者】 並木亀輔、奈川平作

【演者】 中村文七。中村仲藏、芳沢いろは、中山新平、

藤川八甫

N o 1 2 0

【地域】 名古屋

【座】 稻荷芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文化三年（1806）〕 寅七月十八日

【外題】（二二〇） 和訓水滸伝

（二二二） 風流都大おどり

【読み】（二二〇） やまとことばすいこでん

（二二二） ふうりゆうみやこおおおどり

【座本】 藤川友吉

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 奈河篤助、近松徳平

【版元】 内茶屋稻荷屋

【演者】 藤川友吉、関三十郎、中山新九郎、中村大吉、

大谷友衛門、中村歌右衛門

N o 1 2 1

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 未閏七月吉日

【外題】 (一二二) 源平布引瀧

(一二三) 大塔宮曦鎧

(一二四) 拳禪廓大通

【読み】 (一二二) げんべいぬのひきのたき

(一二三) おおとうのみやあさひのよろい

(一二四) けんまわしさとのだいっつう

【座本】 中村鶴之助

【狂言作者】 金沢吾輔、近松桂寿

【版元】 内茶屋

【演者】 中村歌右衛門、実川額十郎、中村芝翫、小川吉

太郎、嵐かのふ、中山南枝

No122

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 四月十八日

【外題】 (二二五) 敵討千手護助釵

【読み】 (二二五) かたちうちせんじゅのすけだち

【座本】 嵐十五郎

【名代】 松本屋治平

【狂言作者】 並木三四郎、近松加造

【版元】 内茶屋

【演者】 尾上鯉三郎、中山よしを、中山文五郎、尾上新

七、中山金才、中山新九郎、坂東国五郎

No123

【地域】 (名古屋)

【座】 (橘町芝居)

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化元年(1804)) 子六月十七日

【外題】 (二二六) 柳緑花白浪

【読み】 (二二六) やなぎはみどりはなのしらなみ

【座本】 嵐十五郎

【名代】 大和屋宗三郎

【狂言作者】 並木正三、奈河篤助

【版元】 内茶屋

【演者】 嵐吉三郎、関三十郎、大谷友右衛門、叶珉子、

嵐猪三郎

No124

【地域】 名古屋

【座】 稻荷芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化七年(1810)) 午四月十五日

【外題】 (二二七) 近江源氏先陣館

【読み】 (二二七) おうみげんじせんじんやかた

【座本】 藤川亀三郎

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 並木三四郎、田辺弥七

【版元】 内茶屋稻荷屋

【演者】 嵐吉三郎、叶珉子、浅尾奥山、藤川咲之助、三

枅三代蔵、中村大吉

No125

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化十年(1813)) 酉正月二十六日

【外題】 (二二八) 姉妹達大礎

(二二九) 春霞富士粧

【読み】 (二二八) あねいもうとでてのおおきど

(二二九) はるかすみやまのよそおい

【座本】 市川善太郎

【狂言作者】 奈河七五三助、奈河晴助

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、浅尾工左衛門、叶珉子、嵐吉三

郎、嵐来芝

No126

【地域】 名古屋

【座】 稻荷芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文化三年（1806）〕寅十月八日

【外題】（二三〇）隅田川続俵

（二三一）姫小松子日の遊

（二三二）妹背の門松

（二三三）忍売恋重荷

【読み】（二二〇）すみだがわごにちのおもかけ

（二三一）ひめこまつねいのひあそび

（二三二）いもせのかどまつ

（二三三）しのびうりこいのおもに

【座本】藤川友吉

【名代】千代屋七右衛門

【狂言作者】奈河篤助、近松徳平

【版元】内茶屋稲荷屋

【演者】藤川友吉、関三十郎、中村大吉、小川吉太郎、

中村歌右衛門

N o 127

【地域】名古屋

【座】稲荷芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化四年（1807）〕卯三月十日

【外題】（二三四）物ぐさ太郎

（三三五）花雲撞鐘頭

（三三六）容艶花娘道成寺

【読み】（二三四）ものぐさたろう

（三三五）はなのくもつきがねがしら

（三三六）すがたのはなむすめどうじょうじ

【座本】藤川亀三郎

【名代】千代屋七右衛門

【狂言作者】並木三四郎、並木清造

【演者】片岡仁左衛門、中山文七、大谷友右衛門、関三

右衛門、嵐団八、瀬川路考

N o 128

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化元年（1804）〕子二月九日

【外題】(二三七) 妹背山婦女庭訓

(二三八) 姫小松子日の遊

【読み】(二三七) いもせやまおんなていきん

(二三八) ひめこまつねのひあそび

【座本】藤川友吉

【狂言作者】奈河九二助、並木長藏

【版元】内茶屋岩七

【演者】藤川友吉、坂東彦三郎、芳沢いろは、中山新九

郎、中村大吉、桐の谷権十郎

No129

【地域】〔大阪〕

【座】〔中の芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化四年(1807) 卯正月二十四日〕

【外題】(二三九) けいせい英草紙

(二四〇) 恋路の関守

【読み】(二三九) けいせいはなぶさぞうし

(二四〇) こいじのせきもり

【座本】浅尾奥次郎

【狂言作者】近松徳三、奈河篤助

【演者】浅尾奥次郎、嵐吉三郎、藤川友吉、中山よし

を、中山文五郎、中山新九郎、中村桑太郎、大

谷友右衛門、市川八百藏

No130

【地域】〔名古屋〕

【座】〔若宮芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化八年(1811) 未六月一日〕

【外題】(二四二) 姉妹達大礎

(二四二) 恋飛脚大和往来

【読み】(二四二) あねいもうとでてのおおきど

(二四二) こいびきやくやまとおうらい

【座本】嵐三吉

【名代】和多屋源兵衛

【狂言作者】奈河十喜助、奈河九二助

【演者】中山新九郎、中山文五郎、中村大吉、中村歌

六、嵐三五郎、嵐来蔵、中山来助、尾上新七

N o 1 3 1

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化九年（1812）〕申九月二十日

【外題】（二四三）妹背山婦女庭訓

（二四四）伊勢詣仇名恋衣

【読み】（二四三）いもせやまおんないきん

（二四四）いせもうであだなのこいぎぬ

【座本】沢村栄八

【名代】和泉屋、相模椽

【狂言作者】近松呉龍軒、奈川常安

【版元】内茶屋大松

【演者】市川男女蔵、沢村東蔵、嵐平九郎、山下万作、

市川伝蔵中山亀三郎、中山倉治郎

N o 1 3 2

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】申十月

【外題】（二四五）四紅葉思恋深川

（二四六）四季英

【読み】（二四五）よつもみじおもいのふかがわ

（二四六）しきのはなぶさ

【座本】沢村栄八

【名代】和泉屋、相模椽

【狂言作者】近松呉龍軒、奈川常安

【版元】内茶屋大松

【演者】市川男女蔵、沢村東蔵、嵐平九郎、山下万作、

市川伝蔵

N o 1 3 3

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化十一年（1814）〕戌九月二十四

日

【外題】(二四七) ひらかな盛衰記

(二四八) けいせい三度笠

【読み】(二四七) ひらかなせいすいき

(二四八) けいせいさんどかさ

【座本】中村歌五郎

【名代】和泉屋、相模椽

【狂言作者】市岡和七、近松万兵衛

【演者】片岡仁左衛門、浅尾工左衛門、沢村田之助、山

科政五郎、中山文七

N o 1 3 4

【地域】名古屋

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】申九月十五日

【外題】(二四九) 義臣伝読切講釈

【読み】(二四九) ぎしんでんよみきりこうしゃく

【座本】津屋長三郎

【太夫本】中村常治郎

【名代】美濃屋勘右兵衛

【狂言作者】浜松歌国、奈河九馬藏

【版元】松屋

【演者】嵐来芝、中村歌六、桐山紋治、中村三代藏、浅

尾額十郎

N o 1 3 5

【地域】名古屋

【座】清寿院芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】閏八月八日

【外題】(二五〇) 双蝶々曲輪日記

(二五二) 伽羅先代萩

(二五二) 艶容女舞衣

【読み】(二五〇) ふたつちようちようくるわにつき

(二五二) めいぼくせんだいはぎ

(二五二) あですがたおんなまいぎぬ

【座本】千代屋七右衛門

【名代】海老屋左吉

【演者】吉岡文吾、吉岡松吉、豊松重五郎、吉岡辰造

N o 1 3 6

【地域】名古屋

【座】〔若宮芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化八年（1811）未五月十五日〕

【外題】（二五三）義経千本桜

（二五四）浪花名物鴈金染

【読み】（二五三）よしつねせんぼんざくら

（二五四）なにわめいぶつかりがねぞめ

【座本】嵐三吉

【名代】知多屋源兵衛

【狂言作者】奈河九二助、奈川十喜助

【演者】中山新九郎、中山文五郎、嵐来蔵、中村大吉、

中村かほよ、中村歌六、嵐三五郎

N o 1 3 7

【座】不明

【番付種別】役割番付

【上演年月日】不明

【外題】（二五五）本朝二十四孝

（二五六）織合襪襦錦

【読み】（二五五）ほんちようにじゅしこう

（二五六）おりあわせつずれのにしき

【座本】片岡国之助

【名代】伊賀屋忠助

【狂言作者】近松恒助、奈川鶴助

【演者】片岡仁左衛門、中山文七、中村歌六、片岡小六

郎、中山新九郎、中山来太郎

N o 1 3 8

【地域】〔名古屋〕

【座】〔稲荷芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文化九年（1812）申六月十八日〕

【外題】（二五七）心中のべの書残

（二五八）戻駕名残の土産

【読み】(二五七) しんじゅうのべのかきおき

(二五八) もどりがごなごりのいえづと

【座本】 藤川半太夫

【名代】 千代屋七右衛門

【狂言作者】 並木三代助、近松治助

【演者】 片岡仁左衛門、浅尾工左衛門、中村大吉、尾上

新七、中村歌六、三柝蘭駄

【備考】 半丁

N o 1 3 9

【地域】 (名古屋)

【座】 (大須芝居)

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化二年(1805) 丑六月九日)

【外題】 (二五九) 一谷嫩軍記

(二六〇) 文月恨切子

(二六一) 妹背山婦女庭訓

【読み】 (二五九) いちのたにふたばぐんき

(二六〇) ふみづきうらみのきりこ

(二六一) いもせやまおんなていきん

【座本】 浅尾為三郎

【名代】 和泉屋、相模椽

【狂言作者】 奈河九二助

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、藤川友吉、大谷友右衛門、藤川

八九郎、中山新七、中村歌右衛門

N o 1 4 0

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化二年(1805) 丑七月十五日)

【外題】 (二六二) 極彩色娘扇

(二六三) 大通恋深川

【読み】 (二六二) ごくさいしきむすめおうぎ

(二六三) あずまおとここいのふかがわ

【座本】 浅尾為三郎

【名代】 湖妻屋治兵衛

【狂言作者】 近松門喬、近松要輔

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、藤川友吉、大谷友右衛門、中村

元藏、藤川八九郎、中村歌右衛門

No141

【地域】 (名古屋)

【座】 (若宮芝居)

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化八年(1811)) 六月十九日

【外題】 (二六四) 乍憚口上

(二六五) 姫小松子日の遊

(二六六) ももちどり鳴門白浪

(二六七) 傾城買教所

【読み】 (二六四) はばかりながらこうじょう

(二六五) ひめこまつねのひあそび

(二六六) ももちどりなるとのしらなみ

(二六七) けいせいがいしなんどころ

【座本】 嵐三吉

【名代】 知多屋源兵衛

【狂言作者】 奈河九二助、奈川十喜助

【版元】 内茶屋大まつ

【演者】 嵐三五郎、中村大吉、中村新六、中山新九郎、

中山来太郎、中村友三、尾上新七

No142

【地域】 名古屋

【座】 清寿院芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (文化三年(1806)) 寅六月二十一日

【外題】 (二六八) 源平布引瀧

(二六九) 宿無団七時雨傘

【読み】 (二六八) げんぺいぬのひきのたき

(二六九) やどなしだんしちしぐれのからかさ

【座本】 市川染太郎

【名代】 湖妻屋治兵衛

【狂言作者】 市外和七

【版元】 内茶屋大まつ

No143

【演者】 市川団藏、浅尾工左衛門、市川市藏、浅尾国五郎、藤川友吉、中山文七、中村桑太郎

【地域】 名古屋

【座】 若宮御芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政十年（1827）〕 亥八月十三日

【外題】 (二七〇) 景色会稽山

【読み】 (二七〇) けいしよくきみるやま

【名代】 松本屋治平、美の屋勘右衛門

【狂言作者】 近松慈輔、金沢松助

【演者】 坂東寿太郎、浅尾奥山、坂東岩四郎、藤川友吉、中山新七、市川助十郎、嵐三五郎